

=速報= 待望の飲む美容液 「EGF配合ドリンク」ついに発売へ



2006年、2007年と美容業界に大きな革命を起こした成分EGFがとうとうドリンクに配合され発売となった。

EGFとは

「上皮細胞成長因子」とよばれる53個のアミノ酸からなるポリペプチドのことで、細胞の内外に貫通型で存在するEGFレセプターと結合することでシグナル伝達を開始し、周囲の細胞に再生と増殖の指令を出すというサイトカインの1種。1962年に世界で初めてEGFを発見、単独分離に成功したスタンレー・コーエン博士はこの功績によりノーベル生理学医学賞を受賞した。さらにブラウン博士は怪我をしていない健康な皮膚への単純塗布によって、新生細胞が著しく増加することを論文にし、これが「皮膚の老化を抑制する方法」として特許になった。

外来性EGFに対する生理応答

組織	促進	組織	促進
骨	細胞分裂 コラーゲン産生	乳	コラーゲン合成 管腔形成
眼	眼瞼開裂 内皮細胞の遊走 内皮細胞分裂 網膜創傷治療	皮膚	乳腺小葉形成 角化 上皮細胞分裂 創傷治療
胃・腸管	潰瘍治療 細胞分裂	血管	内皮細胞分裂 血管新生
肝	肝細胞分裂		

サイトカイン・増殖因子 用語ライブラリーから抜粋

日本では2005年10月に化粧品工業連合会より「ヒトオリゴペプチド-1」として表示名称の登録がされ、同年11月に日本で始めてヒトオリゴペプチド-1配合化粧品「EGFエクストラエッセンス」が株式会社バイオリンク販売より発売された。これを皮切りに空前のEGFブームが起こる。

NPO法人日本EGF協会によると、昨年1年間の販売個数は協会認定商品だけでも40万個を超え、日本全体では50万個、金額にして約40億円市場にまで成長した。昨年はドクターシーラボやDHCなど大手化粧品メーカーからも高付加価値化粧品として発売が開始され、

2008年もさらなる成長が見込まれている。化粧品成分ではかなりの知名度にまで知れ渡ったEGFだが、健康飲料やサプリメントには配合されていなかった。そもそもブラセンタドリンクやツバメの巣ドリンクなど高価な健康飲料のうたい文句には「天然のEGFが配合されているため、お肌がきれいになる」というものが圧倒的に多い。実は未完全な消化器官を完成させるために生後3～5日目の初乳には10ml中1,500ngものEGFが分泌されているのである。つまりEGFには消化器官内皮を増殖再生させる力があることがわかっているのだ。さらに近年歯科医師会が注目するドライマウス（ストレスや習慣により唾液の分泌が少なくなり、消化器官に影響がでること）の症状は、唾液の分泌が減ることで唾液に含まれるEGFの分泌も減り、口内炎や胃潰瘍などが起こりやすくなっているとされている。

そこに日本で最初にEGF化粧品の発売を開始した株式会社バイオリンク販売が、またしてもEGF配合ドリンクの販売を日本で初めて開始した。「化粧品を販売開始したときもそうでしたが、今回もいろいろ苦労しました。効果が期待できる成分だけに薬事法やJAS法などさまざまな観点から検証し、所轄官庁への問い合わせも何度も行い、法律違反にならないように万全の体制をとりま

した」とバイオリンク販売 辻社長は話す。使用するEGFは微生物発酵法で製造された原料で、安全基準のエビデンスを確保、さらに原材料名やその他の表示にも気をつかったという。「化粧品と同じでドリンクでの一般名称にもEGFという表示が使えませんから、発酵法で製造された53個のアミノ酸ということでポリペプチドという原材料名にしました。ただし、ポリペプチドでは、EGFかどうか紛らわしいため、工夫が必要でした」と販売に至るまで経緯も話してくれた。

同社がとった方法は、EGFを清涼飲料で商標登録するというもの。商品名にEGFが入ることで、顧客の理解を得る狙いだ。すでにこの商標は同社により登録済みで、商品名はEGFエクストラチャージドリンクとなっている。まだ販売開始から1ヶ月も経っていないが、「商標ごと販売権を売ってほしい」「ネットワークビジネスの柱にするため独占販売権がほしい」などの話が数件寄せられているという。バイオリンク販売の販売ルートメインは美容業界であるため、エステサロンや美容訪問ルートを中心に差別化商品として卸していくとのこと。近い将来コラーゲン配合ドリンクやブラセンタ配合ドリンクに代わってEGF配合ドリンクが健康ドリンク市場を牽引することになるのは間違いのないであろう。